

水窪小学校の概要

1 沿革

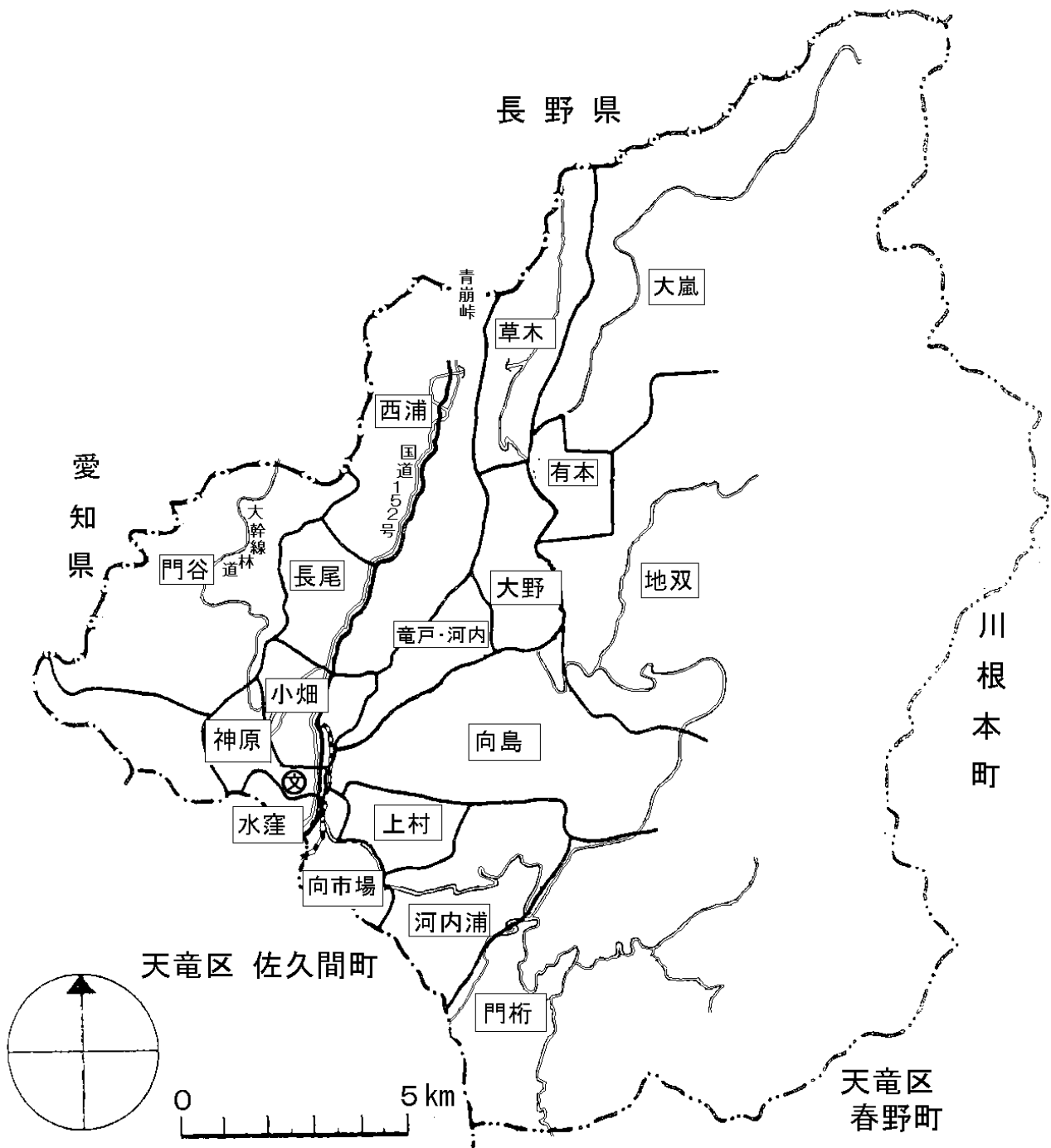
明治 6年 9月	奥領家字丸山（旧水窪中寄宿舍の所）に小学校創設。 校名 第2大学区第12番中学区内第183番小学領家学校と称する。 （下等小学4年、上等小学4年制）教師 本村水窪 三輪玄礼
13年	第2大学区第12番中学区第183番小学を水窪学校と改称した。 教育令改正により、下等小学3年、上等小学5年制となる。
14年 5月	小学校教則綱領交付、小学校初等科3年、中等科3年、高等科2年とする。 小学初等科3年、周智郡第24学区水窪小学校となる。
20年	奥領家尋常小学校と改称。
22年 4月	奥領家村・地頭方村・山住村・相月村が合併し奥山村となったのに伴い、奥山尋常小学校と改称。
26年 6月	神原（現在地）に校舎新築、水窪丸山から移転する。
28年	奥山尋常小学校・中根尋常小学校（西浦）・地頭方尋常小学校（地双区峠）・相月尋常小学校（相月）のうち、奥山尋常小学校を本校とし、上記他の3校と、横吹・野田・芋掘（以上佐久間自治区）、門桁・門谷・草木・有本・大野を分教室に変更。
37年12月	西浦分教場は独立して、西浦尋常小学校となる。
39年	校訓「誠実にして 勤儉なるべし」制定。
41年 4月	小学校令改正により尋常科6年制、高等科3年制となる。
41年11月	奥山尋常高等小学校、校舎新築落成する。
42年 9月	大野分校、峠分校を合併して、大地分校設置。
44年	校訓「誠実 発展」と改定。（校長 高木孝一）
大正 2年 6月	校舎増改築。
4年 3月	西浦尋常小学校廃止、再び分教場となる。6月大野分教場新設。
5年10月	大嵐分教場新設。 校訓「誠実・活動・敬愛」と改定されたと推定。
10年	校舎増築、並びに改築。
14年 5月	町制施行により、奥山尋常小学校を周智郡水窪尋常高等小学校と改称。
昭和元年	当時の学校数と名称・児童数 水窪尋常高等小学校（神原） ○分教場（9校）門谷・大地・西浦・大野・草木・大嵐・有本・河内浦・門桁 学級数：26 児童数：尋常科1,063、高等科113、教員数：34 ○家庭教習場（2ヶ所） 白神、畑梨・・・児童数18 教員1
16年 4月	国民学校令施行により周智郡水窪町国民学校と改称。
22年 4月	学制改革により、水窪町立水窪小学校と改称。分教場は分校となる。
26年 7月	行政区域変更により磐田郡水窪町立水窪小学校と改称（周智郡より分割）
31年 6月	鉄筋3階建本館校舎新築落成。
32年12月	鉄筋3階建別館校舎新築落成。
33年	給食室とプール（25m）が完成。
35年 6月	佐久間高校水窪分校、別館東側に木造2階校舎を新築移転（42年3月閉校）
38年 4月	西浦分校独立、水窪町立西浦小学校となる。
40年 4月	門桁分校独立、水窪町立門桁小学校となる。
44年 3月	門谷分校（児童1名）、河内浦分校（児童3名）閉校、本校に統合。
45年 4月	大地分校休校。
46年 4月	有本分校休校。
49年 4月	大野分校休校。
50年 2月	体育館完成。

53年 3月	大地分校廃校。
54年 7月	低学年用プール完成。
57年 8月	本館校舎1・2階床張り替え。全校舎外面塗装工事。
59年 8月	本館、別館の校舎内部全面塗装工事。
61年 3月	大嵐分校休校。
平成元年 3月	草木分校休校。
2年11月	草木分校廃校。校舎解体。
5年 3月	大野分校廃校。
10年 3月	体育館バスケットゴール電動化工事。
12年 3月	有本分校廃校。
12年 7月	校舎改築工事起工式。
13年 6月	校舎竣工式。
14年 3月	新プール完成。グラウンド整備完了。
15年 3月	大嵐分校廃校。
17年 4月	西浦小学校が水窪小学校に統合。
17年 7月	水窪町が浜松市に合併したのに伴い、浜松市立水窪小学校と改称。
17年10月	ろくぼく(遊具)を設置。
18年10月	全日本学校歯科保健優良校 表彰。
20年 3月	浜松市交通安全優秀校 表彰。
20年 8月	校舎南側及び中庭ウッドデッキ安全対策完了。
21年 3月	浜松市交通安全優秀校 表彰。
21年11月	浜松市小中学生発明工夫展にて「学校奨励賞」を受賞。
23年 4月	学校給食が「親子方式」となり、「水窪小・中学校給食室」が発足。
24年 8月	静岡教弘より「教育活動奨励賞」を受賞し助成金を贈られる。
25年 3月	体育館東側に防災倉庫を設置。
25年12月	太陽光発電パネル(避難所用)設置工事完了。

2 教育実践のあゆみ

昭和46～47年度	情操豊かで行動力のある子どもの育成を目指して(道徳・図工・特活) 47年11月21日研究発表会(県教委指定)
昭和51～54年度	学ぶ子を育てる学習指導(算数学習を通して)
56年度	学ぶ力を育てる学習指導(国語科を中心に)
57年度	自ら学ぶ子の育成(国語科 読解指導を通して)(町教委指定)
58～59年度	文章表現力を高めるためにはどのような指導を行えばよいか(文部省指定)
61～62年度	文章表現力を豊かにするには、どのような指導を行えばよいか — 学び方が分かる系統的指導と自ら取り組む題材開発を通して —
63～平成3年度	文章表現力を高め、豊かにするには、どのような指導を行えばよいか — 学び方が分かる系統的指導と自ら取り組む題材開発を通して —
平成 4年度	確かな力で、進んで発表する子 — 学び方が分かる系統的指導と表現力の向上を目指して —
5～9年度	確かな力で、進んで学習する子
10～11年度	確かな力で進んで学習する子の育成 — 自分としての見方・考え方・表し方の確立を目指して —
12～15年度	共に学び合う子の育成 — 生きる力を育む総合的な学習(生活科)の実践 —
16～21年度	学ぶ喜びを感じる子の育成
22～24年度	高め合う喜びを感じる子の育成
25年度	考えを伝え合い、高め合う子の育成

3 学区の略地図



東西約 21 km、南北約 23 km、総面積 271.1 ha

4 校地と校舎

校舎総建平方米 1,973㎡

校舎延平方米 2,489㎡

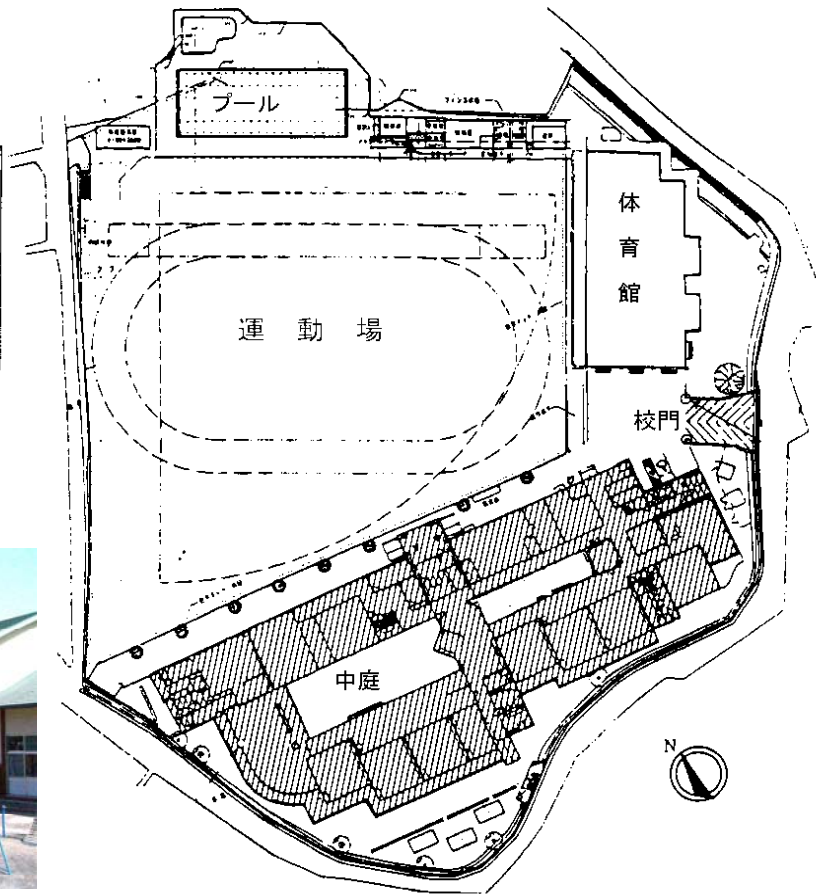
学校の位置

北緯 35° 09′

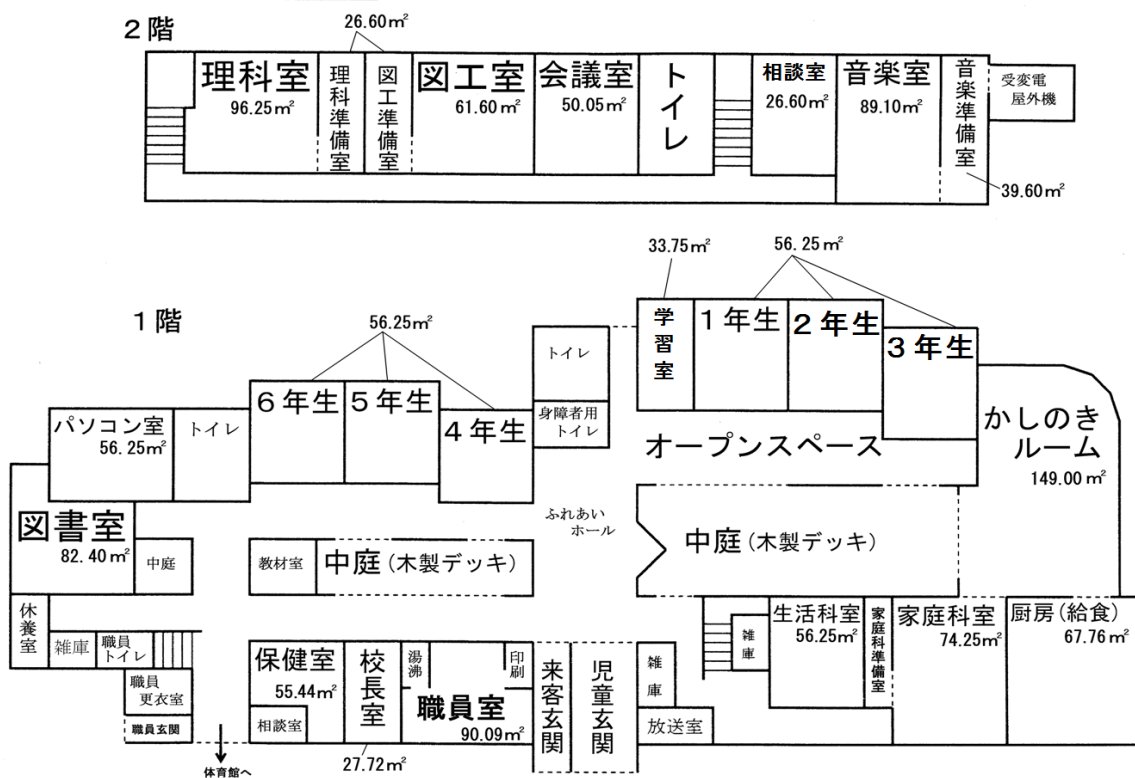
東経 137° 52′

標高 280m

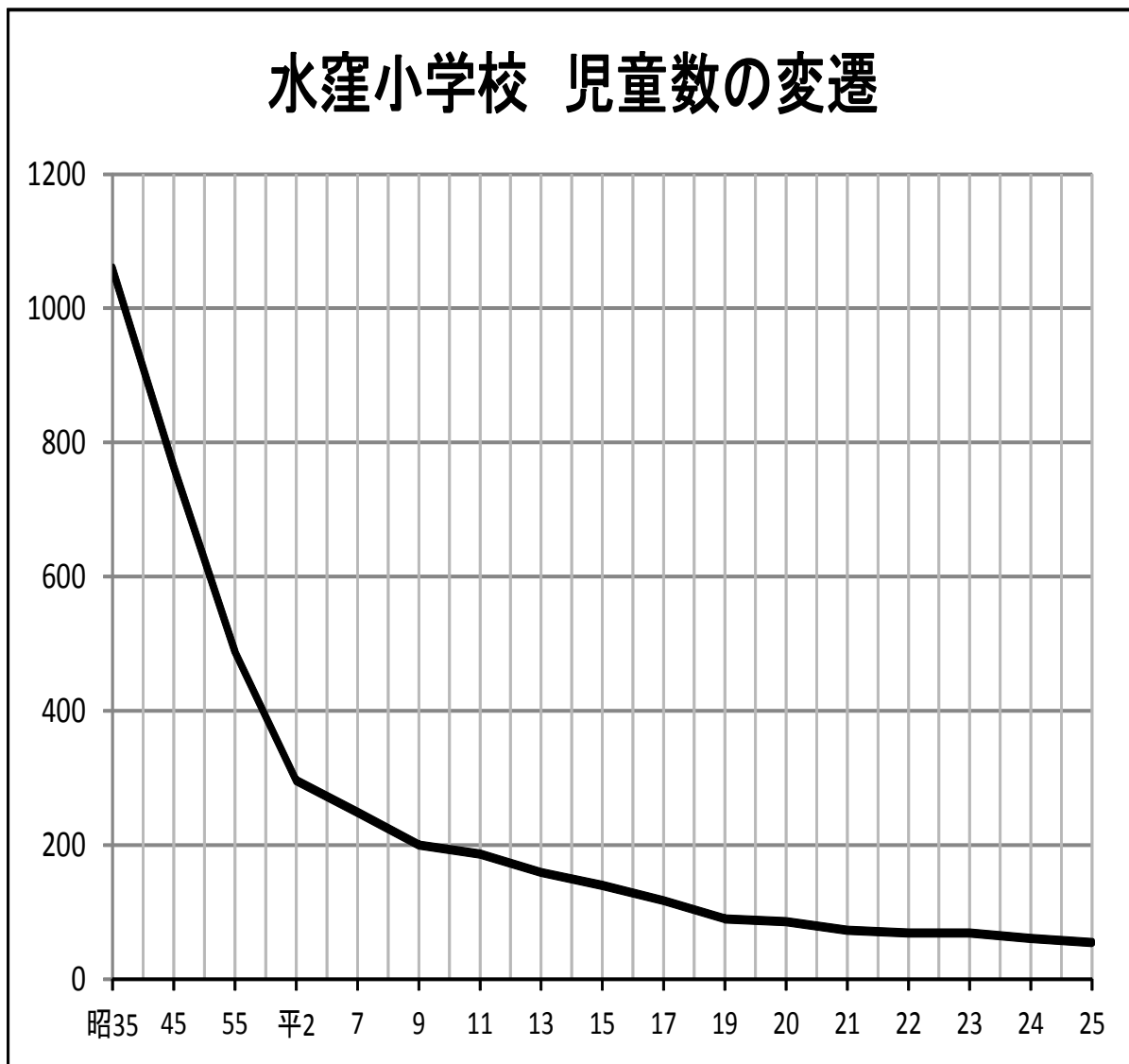
番地 奥領家 2697-1



水窪小学校 校舎案内図



5 児童数の変遷



昭和30年代には1,000人以上だった児童数も、平成25年度は50人台です。